日本のいしばし net+ ネットプラス
2024.3.15
6

日本の石橋を守る会　会長 橋本 幸一　事務局 〒869-4302 熊本県八代市東陽町北 98-2 八代市東陽石匠館内
TEL.0965-65-2700　メール koho@ishibashi-mamorukai.jp　ホームページ https://www.ishibashi-mamorukai.jp

桑野の梯橋　クラウドファンディング活用し応急保全

雪の日の桑野の梯橋（2025 年 2 月 5 日）
嘉麻市文化財公式 YouTube チャンネルの動画より
橋は安全上、立ち入り規制が継続されている

福岡県立朝倉高校の生徒が部活動（史学部）で行った「幻の石橋」調査で存在が広く知られるようになり、2023 年に嘉麻市の指定文化財となった「桑野の梯橋（かけはしばし）」（日本のいしばし 100 号で紹介）。以前から 5 列のリブアーチ基礎周辺の岩盤が崩れてきており、大雨による起拱石の崩落が予想される状況でした。

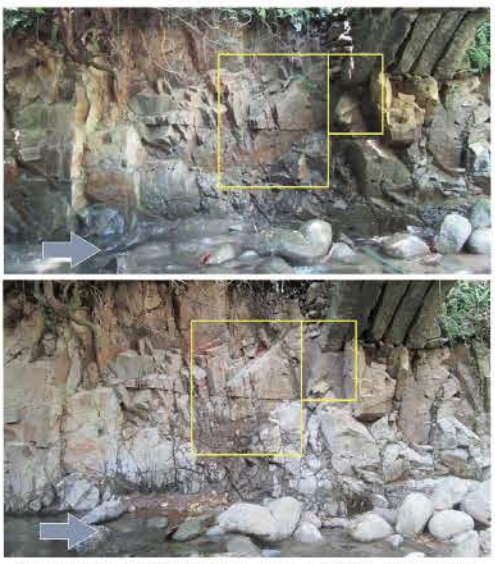
そこで同橋の応急保全措置として市は、昨年 12 月までに補強工事を完了

（次面に続く）

しました。その一方で、同橋の保存プロジェクトを展開し、ネットを活用したクラウドファンディングを通じて 800 万円を目標に保全費用への支援金を募集したところ、約 580 万円が集まりました。募集は昨年末に終了。昨年 11 月には、「『幻の石橋』の魅力と謎に迫る」と題した調査報告会を嘉麻市で開催。同校史学部の活動報告、市教育委員会による「幕末の嘉麻郡と石橋建設の背景」と題した報告、座談会が行われました。

市教委生涯学習課では現在、高校生らの協力によるワークショップ開催を計画しており、準備を進めています。（広報部）

嘉麻市文化財公式 YouTube
チャンネルの報告会動画
（約 40 分間）



桑野の梯橋の応急保全工事着手前（上）と完成後（下）。岩盤の黄色枠が補強箇所（橋の上流・左岸側）。岩盤をステンレスアンカーを使ったロックボルト工法で補強し、擬石処理が表面に施された
写真提供／尾上建設

幕末の創建から 170 年目　八勢目鑑橋と中道橋

八勢川に架かる八勢目鑑橋。右奥のアーチ橋は八勢水路橋
写真提供／中村まさあき

金属アングルを使って輪石が固定された状態が続く中道橋
＝2025年1月26日撮影

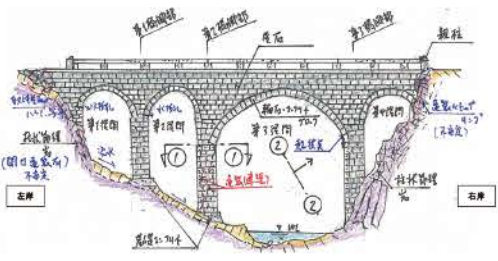
熊本県御船町の八勢目鑑橋（県指定文化財）と中道橋（町指定文化財）の創建は共に幕末の 1855（安政 2）年。今年は 170 年目の年を迎えます。

八勢目鑑橋は、御船の豪商・林田能寛が私財を投じ、種山石工の宇助や弟の甚平らが施工。2016 年には熊本地震で被災しましたが復旧しました。桜、新緑、紅葉へと変わる周辺の景観も魅力です。

一方の中道橋は、要石に八代種山 丈八（橋本勘五郎）、甚作と石工名が刻まれています。2023 年、地盤に緩みが生じて輪石が崩落しそうになったため、金属アングルなどを使い固定されました。今も橋は通行禁止のままで、今後の町の保存方針が注目されます。（広報部）

4 連アーチ 年禰橋が復旧

熊本県美里町の年禰橋（としねばし、町指定文化財）は、1924（大正 13）年創建の県内では珍しい 4 連アーチ石橋。熊本地震後の調査で損傷と経年劣化が確認されたため、文化財としての価値を損なわない対策工法によって 2023 年に修復工事が完了しました。（広報部）



年禰橋の修復対策工法案のスケッチ
建設プロジェクトセンター発行「年禰橋 修復記録書」より

「石橋サブレ」 1箱9枚入り980円
美里まちづくり公社が企画、熊本菓房が製造
（同公社）TEL.0964-27-9850

石橋のイラスト入りサブレ

緑川に架かる霊台橋、川面にハート形の影をつくる二俣橋、背の高い年禰橋など、熊本県美里町に現存する 9 橋のイラストがかわいいお菓子「石橋サブレ」。9 橋のガイドパンフ入り。道の駅美里「佐俣の湯」や砥用物産館「ほたる」、町内ファミリーマートなど、約 13 カ所で販売中です。石橋巡りの後のお茶のひとときにどうぞ。（広報部）

熊本・山都町が通潤橋国宝指定・架橋 170 年記念事業

通潤橋の国宝指定と架橋 170 年を記念するイベントが山都町教育委員会の主催で昨年 6 月から 12 月にかけて計 3 回、同町で開催されました。

第 1 回（6 月）は農業農村工学会 水土文化研究部会との共催で、「170 年にわたる白糸台地の農業の源 『通潤橋と通潤用水』～農業土木施設としての特徴と価値を考える～」と題した講演会が開かれ、同会の広瀬伸氏が「通潤橋はすごい！ その秘密をさぐる」、九州沖縄農業研究センターの島武男氏が「通潤用水・通潤橋から学んだこと - 現在の一農業土木技術者の眼から -」をテーマに登壇。

「国宝通潤橋シンポジウム」のパネルディスカッションの様子＝山都町、2024年12月7日
写真提供／中村まさあき

第 2 回（10 月）の講演会は「〝近世石橋の傑作〟通潤橋を生んだ技術と地域社会」と題し 3 人の研究者が講演。熊本大学の山尾敏孝名誉教授が「通潤橋の構造特性を探る」、石川県金沢城調査研究所の北垣聰一郎名誉所長が「反りとアーチの巨大石橋 通潤橋」、熊本大学永青文庫

（次面に続く）

研究センターの今村直樹准教授が「通潤橋を生んだ熊本藩政と地域社会」をテーマに講演しました。

締めくくりとなった第 3 回（12 月）は自治総合センターとの共催で「国宝通潤橋シンポジウム」と題し、音楽デュオ Viento（ビエント）によるミニコンサートの後、文化庁・文化財調査官の北河大次郎氏による「国宝への道のりと新たな価値評価」と題した基調講演があり、続いて「国宝『通潤橋』を未来へつなぐために」をテーマとしたパネルディスカッションが行われました。コーディネーターを熊本大学の田中尚人准教授が務め、これまでに登壇した北河氏、山尾氏、広瀬氏に加え、通潤地区土地改良区の阿部主税理事長と山都町観光協会の山下泰雄会長の 5 人がパネリストとして参加。国宝に指定された通潤橋について、北河氏は文化財としての視点から、山尾氏は石造構造物の視点から、広瀬氏は農業土木の視点から、阿部氏は通潤用水の維持管理の視点から、山下氏は観光振興の視点から、それぞれ意見を述べました。

これら 3 回の講演会・シンポジウムの内容は町教委により報告書としてまとめられ、町のウェブサイトで 4 月以降に発表される予定です。なお、通潤橋の国宝指定につながったといわれる「重要文化財 通潤橋 総合調査報告書」（2023 年発行）は、下の 2 次元コードのサイトからダウンロードできます。（広報部）

山都町ウェブサイト（通潤橋）

通潤橋総合調査報告書のサイト

ミニチュア石橋づくりワークショップと写真展を開催

森川孝一【熊本】「石橋を次の世代へつなごう会」の主催で一昨年から、子ども向けにミニチュア石橋づくりワークショップを開催しています。通潤橋の国宝指定をきかっけに、子どもたちの石橋への興味や理解を深めたいとの思いから企画しました。玉名工高、滑石小、矢部高などとコラボ。昨年 10 月は教育事業会社「やまと」と共催で、石材（溶結凝灰岩）、レンガ、自然石、積み木の 4 種類のミニチュア橋のつくり方を高校生が小学生に教えました。皆、楽しい時間を過ごせたようです。

今年 1～2 月は玉名市で石橋写真展を開催。写真 28 点と関連書籍などを展示しました。来場の方に石橋への興味を喚起できたのではないかと思います。

ワークショップに参加した小山晃寛会員の子・三四朗さん（中央の後ろ姿、中1生）が自然石で組み立てたアーチ

ミニ石橋づくりワークショップ動画（玉名市）

ミニ石橋づくりワークショップ動画（通潤橋）

石橋を次の世代へつなごう会ホームページ

九州地域づくり協会「土木遺産な旅のススメ」を発行

赤星文生【福岡】 九州地域づくり協会には 250 を超える土木遺産のコレクションがあります。それに興味を持ってもらうには、各土木遺産の履歴に加え、造られた目的、人物、技術の変遷を描いてみたら…とのアイデアから冊子の創作が始まりました。「なぜ？ 九州にはこんなに石橋が多いのか」。その謎解きに始まり、旅人になった気分で、未来への学びを紡ぎました。昨年 5 月に熊本の通潤橋を大学生と訪れ、現地の方々のご協力で謎解きの旅を体験。学生にその旅物語を発表してもらいました。次代の地域づくりを担う人材の育成につながったと思います。冊子には土木遺産への旅のつくり方も載せていますので、皆さん独自の旅物語をご考案ください。

「土木遺産な旅のススメ」の中面。石橋では上の長崎の眼鏡橋をはじめ、秋月目鏡橋、通潤橋、霊台橋、雄亀滝橋、西田橋、豊岡眼鏡橋、荒瀬橋、耶馬渓橋、明正井路第一拱石橋などを掲載

「土木遺産な旅のススメ」は一般社団法人九州地域づくり協会が発行。オールカラー、約300ページ。店頭販売はしておらず、右の2次元コードのサイトで閲覧・ダウンロードができる

土木遺産 in 九州 HP